

松戸の丘の威風(上)

千葉大学園芸学部フランス式庭園

JR松戸駅から、10分くらい歩くと、小高い丘に着く。一般に「松戸の丘」とよばれている。その地には、江戸から明治に変わり、將軍家を降りた徳川慶喜の弟、徳川昭武が隠棲した戸定邸と広い庭園がある。



園芸学部の研究棟や図書館に囲まれたフランス式庭園（春先で芝生がはっきりしない）

かぶ。松戸のそれをループル城の庭園と比べるのはかわいそうだが、共通点は、平面的&対称的な幾何学的配置である。

現地を4月8日に訪ねた。まだ、芝生は薄茶色で庭園の幾何学的配置にコントラストが弱い。その他の草花もまだ生氣(精気)は弱い。それでもパンジーやチューリップなどは春を主張している。

写真のように、フランス式庭園は、左右前後が対称で、その中心に円形の花壇は、池がその位置を占めているが、松戸の場合には、大理石の水鉢状のモニュメントが花壇に立っている。

中央の水鉢状のモニュメントには、東西南北の位置に、「典」「大」「金」「玖」の4文字と思われる刻字がある。その意味は今のところ不詳であるが、この庭園は、1910年代に前身の園芸専門学校の林脩巳(はやし・のぶみ)講

地元力発見!!

(30)

佐藤建吉 「洗楓座」代表

フランス式庭園と校の林脩巳(はやし・のぶみ)講堂の庭園が思い浮造ったものであるという。

このフランス式庭園は、日比谷公園、新宿御苑、岩崎邸庭園について第4番目と古い。林先生は、英仏米で園芸修行をしてきており、上記の造園にも関り、専門家として開校された県立園芸専門学校

の講師に就任したのであった。林先生は、庭園実習で学生を動員して土手を切り崩し、モッコで運んで地盤を作る作業を積み重ねて校舎に併設した庭園を造った。

フランス式庭園のほか、冒頭に述べたイタリア式庭園、イギリス風景式庭園、ロックガーデンなどは、林先生と学生によって実習で造られたものである。当時の実習を体験した名誉教授もいるという。

松戸の丘を歌う

フランス式庭園の傍らには、与謝野晶子の歌碑がある。次の2首(けし)

うすものの女の友を待ち得たる
松戸の丘のひなげしの花



傍らにある与謝野晶子の句碑

晶子は、大正13年(1924年)初夏に実際に園芸専門学校に立ち寄って、短歌60首を呼んだという。与謝野晶子の顕彰は、平成21年(2009年)の千葉大学園芸学部創立100周年記念で設置されたという。次回に紹介する戸定公園でも石碑が設置されている。

(続く)

が赤御影石の石碑に刻されている。

1950年山形生まれ。東京都立大院卒。元千葉大学大学院工学研究科准教授(金属疲労専攻)。金属疲労の研究のほか、他分野のテーマの研究開発に努めるとともに日本各地の地域おこし活動に従事する。ローカル鉄道と地元の酒蔵のコラボで地域再生を図る地酒「鐵の道」の製造・販売を企画(すでに10件を超える銘柄を送り出している。一般社団法人洗楓座代表。全国ふるさと大使連絡会議)理事